

## ベンチャー企業へのインパクト投資の実際

黄 春 梅

### 目 次

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. インパクト投資とは        | 5. 責任ある出口戦略と「インパクトIPO（新規株式公開）」 |
| 2. インパクト投資ファンドの設計   | 6. インパクト投資の発展のためには             |
| 3. インパクト投資の投資検討プロセス | 7. 終わりに                        |
| 4. インパクト投資の伴走支援     |                                |

経済的なリターンと社会・環境的なリターンの両立を目指す「インパクト投資」が注目されている。ベンチャー投資業界でも、ESGやインパクトの可視化への関心が高まっている。筆者は、2017年以降、新生銀行グループにおいて邦銀系初のインパクト投資ファンドの組成に始まり、十数社のベンチャー企業へインパクト投資・成長支援を行っている。この実践経験を基に、ベンチャー企業へのインパクト投資の実態や今後の展望についてまとめてみた。

## 1. インパクト投資とは

### (1) インパクト投資の定義

インパクト投資のグローバルネットワークであるGlobal Impact Investing Network (GIIN) (注1) によれば、インパクト投資とは、財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的および環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投資である。従来の投資判断

は「リスク」と「リターン」の2軸で行うのに対し、インパクト投資では、それに加え、投資の結果や投資先の事業を通じて生じた社会的・環境的な変化や効果を意味する「インパクト」も考慮し、3軸で投資判断を行っている。

また、インパクト投資の構成要素として、GIINは以下の4点を挙げている(注2)。(1)ポジティブで測定可能なインパクト創出の意図があること(Intentionality)、(2)財務的なリターンを追求



黄 春梅 (ほあん ちゅんめい)

新生企業投資(株)マネージングディレクター、新生インパクト投資(株)代表取締役。1998年上海財経大学(中国)経済学部卒業、2001年神戸大学経営学研究科卒業。CFA協会認定証券アナリスト、米国公認会計士、日本評価学会認定評価士。2005年新生銀行に入行、プライベートエクイティ業務に従事。2012年11月より新生企業投資を兼務、2017年1月にインパクト投資チームを立ち上げ、2021年7月よりマネージングディレクター(現職)。2019年3月に新生インパクト投資を設立、代表取締役(現職)。GSG国内諮問委員会委員、多摩大学社会的投資研究所客員研究員、日本CFA協会理事。